



明治150年 米の流通に関するアーカイブ

公益社団法人米穀安定供給確保支援機構

カテゴリー

生産

- 【資料名】 雁爪(がんづめ)
【年代・来歴】 大正～昭和初期
【寸法】 全幅20cm、高さ20cm
【材質】 木製、(爪)鉄製
【保存状態】 概ね良好



【略説明】

雁爪は江戸時代から使用されている、株間の中耕や除草に用いる農具。写真の雁爪は短柄、4本爪の雁爪である。爪を株間に打ち込み、手前に引くようにして土を反転させることで、中耕と除草が行える。しかし短柄の雁爪では、腰を曲げての苦しい作業姿勢であることには変わりなく、作業も1日5アールが限度であった。

明治期になってからは、正条植えの普及とともに、雁爪を回転させるアイディアによる手押しの中耕除草機が発明された。

【注記】

所蔵元である愛知県農業総合試験場(本場)は、収集・寄贈された農具等を展示・保存している「農業啓発館」を併設している。ここでは明治から昭和初期にかけて県内の農家で実際に使用されていた米づくりや養蚕などの農機具のほか、民具、生活用具なども展示しており、無料で見学することができる。

また同試験場で改良・開発された「名古屋コーチン」に関するコーナーもある。

- 【所蔵機関】 愛知県農業総合試験場(本場) 農業啓発館
【住所】 長久手市岩作三ヶ峯1-1
【連絡先電話番号】 0561-62-0085(企画普及部経営情報研究室)
【所蔵先URL】 <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/nososi/0000061362.html>
【閲覧】 常設展示
開館時間：9時30分～15時30分
休館日：土・日曜日、祝日、年末年始(12月29日～1月3日)
入館料：無料